

景観・デザインに関する他市事例

No.	所在地	学校名	特徴
1	三重県	多気町松阪市学校組合立 多気中学校	・蔵の街並みと調和したデザイン
2	三重県	亀山市立 関中学校	・関宿の街並みと調和したデザイン
3	三重県	松阪市立 鎌田中学校	・敷地中央に地域の人も通り抜け可能な「鎌中ストリート」
4	宮城県	女川町立 女川小学校・女川中学校	・町の木であり学校の木でもある「桜」を外装テーマ色
5	山口県	岩国市立 東小学校・東 ^{ひがし} 中学校	・ラーニングセンターを中心とした回遊動線
6	茨城県	古河市立 古河第一小学校	・「歴史の面影」「場の記憶」を残した地域の核となる学校づくり
7	愛知県	新城市立 黄柳川 ^{つげがわ} 小学校	・周辺の山並みや家並みに合わせた切妻屋根、地域材で設えた下見張りの木壁

No. 1

学校名称	多気町松阪市学校組合立多気中学校
所在地	三重県多気郡多気町相可 1540
建物用途	中学校（公立）
延床面積	6,106 m ²
構造・階数	RC造、S造・地上2階建
新築・改修	新築
整備時期	2020年7月竣工
概要	多気町は伊勢本街道等の3つの街道が通過する交通の要地として発展し、蔵の街並みが今も残っている。蔵の特徴的な意匠的要素を校舎に取り入れ、この地に親しみあるデザインとした。128mの直線廊下を多気中街道と位置づけ、その街道沿いに情報の蔵（特別教室）、学び舎（普通教室）を配置し、様々な活動が街道にあふれ、にぎわう姿をイメージした。

写真



校舎外観

2階建の大型図書館を中央に据え、その周囲を特別教室、さらにその両翼に普通教室を配置した構成。



1階、2階どちらからでも直接図書館にアクセスでき、さらに全ての学年が他学年の教室を通らず特別教室や昇降口へと行き来できる構造になっている。

写真



校門



サイン計画

エリアごとに統一された「暖簾」を使用。業種によって色や文様で区別されていた、暖簾元来の考え方を校舎に置き換えた。



特別教室には、家紋に見立てたオリジナルピクトグラムを作成し、日本の文化を身近に感じられる空間となっている。

(第55回 日本サインデザイン賞 入選)



[出典]

石本建築事務所 <https://www.ishimoto.co.jp/products/6186/>

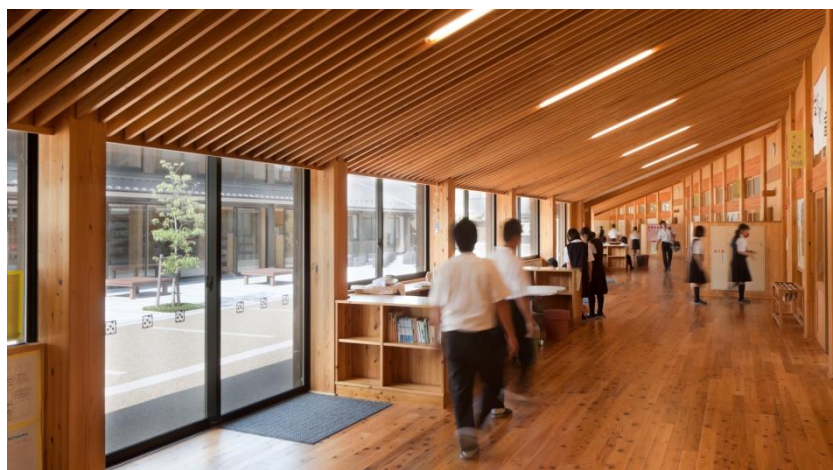
株式会社ミツイバウ・マテリアル <https://gaiso-mie.com/category/blog/>

株式会社バイタル <https://vital-design.jp/1701/>

No. 2

学校名称	亀山市立関中学校
所在地	三重県亀山市関町新所 1863 番地
建物用途	中学校（公立）
延床面積	2,908 m ²
構造・階数	木造・地上2階建
新築・改修	改築
整備時期	2011年3月竣工
概要	<p>関中学校は、旧東海道で唯一重要伝統的建造物群保存地区に指定された関宿の街並みを擁する地域に立地している。普通教室、管理諸室部分を改築し、既存の特別教室棟、体育館棟との連携を図る位置に計画された。</p> <p>改築校舎は2棟で構成され、中庭は関宿の「街道」を模して山に向かって緩やかな弧を描く。中庭を取り囲む形で、各学年の学習スペースや多目的ホール、メディアセンターなど“生徒”の活動空間を配し、さまざまな学習形態の展開を促す計画とした。</p>
写真	
	
	校舎外観
	
	<p>中庭</p> <p>国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている関宿のまちなみを再現している。</p>

写真



教室前の廊下

中庭からの光が柔らかく差し込む落ち着いた雰囲気。



教室

木造校舎の柱には地場産の杉丸太や県産材の杉集成材を、梁には国産唐松集成材を使用し、仕上げにも杉を多用したぬくもりも香しい「木の学び舎」を目指した。



多目的ホール

メディアセンターが併設された多目的ホール。昼食時はランチルームとして使用されている。

吹抜に林立する直径約50cm、高さ7～9mの8本の丸太は地域の山から切り出し、原木に近い形で使用した。

[出典]

石本建築事務所 <https://www.ishimoto.co.jp/products/1828/>

亀山市立関中学校 <https://www.kameyama-mie.jp/kblog/sekichu/>

No. 3

学校名称	松阪市立鎌田中学校
所在地	三重県松阪市鎌田町 656
建物用途	中学校（公立）
延床面積	7,609 m ²
構造・階数	RC造、一部S造・地上3階建
新築・改修	新築
整備時期	2020年2月竣工
概要	鎌田中学校はコミュニティ・スクールであり、また学校施設内に複合している地域交流センターは公民館機能も有している。敷地中央には地域の人も通り抜け可能な「鎌中ストリート」を設け、学校と地域の日常的な交流を促している。さらにその地域の人の流れを校舎内にも引き込み、地域サロンやメディアスペースへと導き入れることで、学校と地域がより深く関わりあうことを意図した。

写真



校舎外観

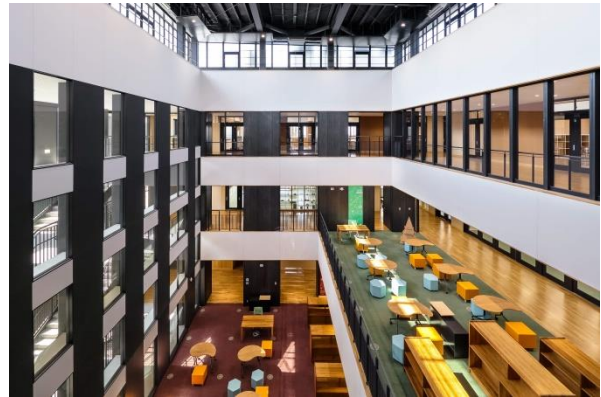
1階に地域活動ゾーン、1・2階に学校と地域の交流ゾーン、3階に全普通教室を集約した構成。



自然採光と西日遮蔽

3階の普通教室は、屋上のハイサイドライトと外壁開口部の縦ルーバー設置により自然採光と西日遮蔽を行い、方位に左右されない教室配置を可能にした。

写真



中庭・吹き抜け

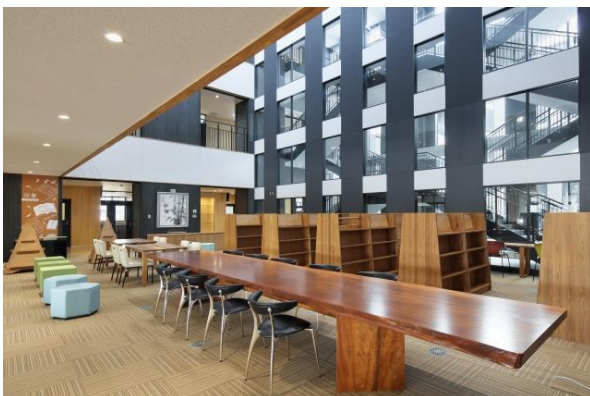
わっかの中央には 3 層吹き抜で見通しの良いメディアスペースと中庭を配置し、自然光と自然通風が心地よい機能的な学びと多様な交流を生み出す空間を実現している。



廊下



普通教室



メディアスペース

[出典]

石本建築事務所 <https://www.ishimoto.co.jp/products/5361/>

三重県建設業協会 https://www.miekenkyo.or.jp/award_detail_no40.php

株式会社北村組 <https://www.kitamuragumi.co.jp/site/performance/education/206/>

No. 4

学校名称	女川町立女川小学校・女川中学校
所在地	宮城県牡鹿郡女川町女川一丁目2番地1
建物用途	小学校（公立） 中学校（公立）
延床面積	13,647 m ²
構造・階数	RC造、S造・地上2階建
新築・改修	新築
整備時期	2020年7月竣工
概要	外観は町の木であり学校の木でもある「桜」を外装テーマ色として、RC躯体の灰白色と、万事を内包する濃灰色の三色で構成している。安定感や安心感を直感できる形状や色彩により、地域の人々の心のよりどころたる重厚さを持ち、女川のモダンで魅力的な新しいまちづくりに則したデザインとした。また、内装は木質材料を多用した暖かく明るい空間としている。

写真



全景



校舎外観

校舎の左右を小中の普通教室に振り分け、中央に大きな階段動線を集中させて「学校の幹」と名付け、吹き抜けを介したコミュニケーションの要とした。



学校の幹



大階段から小学校の教室につながる廊下

写真



町を一望できるメディアセンター



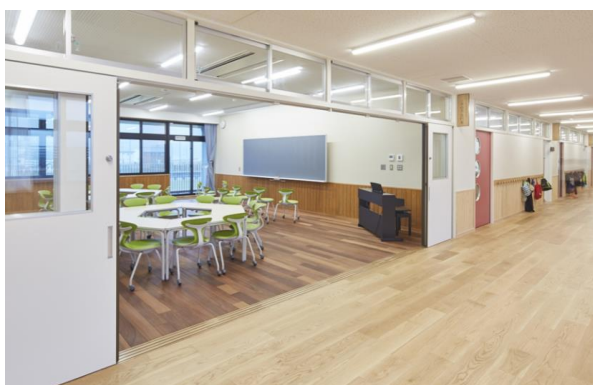
メディアセンターには大型プロジェクタを整備



明るいランチルーム



ランチルームに併設された調理室



廊下



普通教室

[出典]

昭和設計 <https://www.showa-sekkei.co.jp/ip/project/bunrui2?id=445&p=2>

パナソニック <https://www2.panasonic.biz/jp/solution/school/works/onagawa-EJHS.html>

内田洋行 <https://www.uchida.co.jp/public/calendar/2021/onagawa.html>

No. 5

学校名称	岩国市立東小学校・東中学校
所在地	山口県岩国市三笠町二丁目1番9号
建物用途	小学校（公立） 中学校（公立）
延床面積	校舎棟：15,597.57 m ² （既存建物含む） プール・部室棟：1,386.42 m ²
構造・階数	RC造、PRC造、S造・地上3階建
新築・改修	新築
整備時期	2020年7月竣工
概要	近年の課題である「中一ギャップ」を克服するため、教育区分を「4・3・2」とした義務教育9年間の連続した学びが可能なゾーニングとしている。 中庭側は市松状に耐震壁をラーニングセンターを中心に配置している。 3層にわたるラーニングセンターを中心に、回遊動線をつくり、教科メディアもつなげ、教科を超えた主体的な学びを誘発させている。
写真	
 <p>中庭</p> <p>市松模様をアイコンとして校舎全体にちりばめ、子どもたちの記憶に残る学校づくりを行っている。</p>	
 <p>校舎をつなぐ連絡橋</p> <p>道をはさんだ2つの敷地に、南側に校舎とアリーナ、北側にグラウンド、プール、部室を配置し、連絡橋で南北の敷地をつなぐことで、安全で使いやすい学校としている。</p>	

[出典]

石本建築事務所 <https://www.ishimoto.co.jp/products/6174/>

No. 6

学校名称	古河市立古河第一小学校
所在地	茨城県古河市中央町 3 丁目 10-1
建物用途	小学校（公立）
延床面積	6,718.84 m ²
構造・階数	RC 造、S 造・地上 2 階建
新築・改修	改修
整備時期	2016 年
概要	古河第一小学校は古河城出城跡に位置し周辺には古河歴史博物館、文学館などがあり市街地における景観形成重点地区にある学校である。改築にあたり「歴史・文化が漂う緑に包まれた学校」をコンセプトに、ワークショップにより地域住民・児童・先生方の意見・学校への想いを取り入れ、「歴史の面影」「場の記憶」を残した地域の核となる学校づくりを目指した。

写真

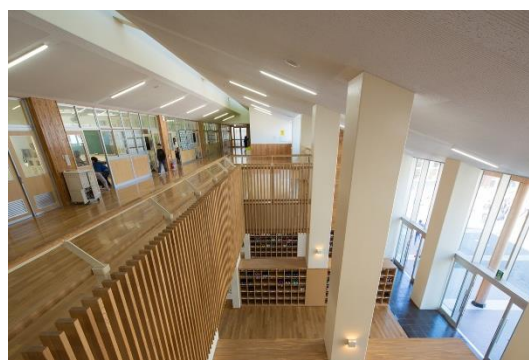


校舎外観

明治 37 年創立当初のままのレンガ造りの「赤門」（今回設計にて門扉を復刻）を中心に 中庭、昇降口を配し高台に校舎棟を整備、西門からは堀跡の名残である敷地の高低差を利用し、石垣の城門のように校舎の下をくぐり中庭へと導く。



校舎全景



内観

[出典]

長塚建築設計事務所 <http://nagatsuka-arch.com/case/kaichiku>

No. 7

学校名称	新城市立黄柳川小学校
所在地	愛知県新城市下吉田字五反田 187 番地 1
建物用途	小学校（公立）
延床面積	3,125 m ²
構造・階数	木造、RC 造・地上 2 階建
新築・改修	新築
整備時期	2013 年竣工
概要	山吉田地区 2 校の統合校として整備された、木造 2 階建て校舎。 周辺の山並みや家並みに合わせた切妻屋根、地域材で設えた下見張りの木壁は、この地区の昔からの風景をかたちづくる構成要素。また、地域と学校の交流の場、円形多目的ホールのとんがり屋根は地域のシンボルとなっている。

写真



校舎外観



円形多目的ホールのとんがり屋根

まちの豊かな自然環境、四季折々の美しい風景になじむ簡素でシンプルな表現を心掛けた。
構造部材・外内装材には日本有数の強度・美観をほこる「三河杉」を使用し、建設で使われた 90% 以上の木が地域材となっている。



地域施工ワークショップ



児童施工ワークショップ

ワークショップ

地域のヒノキでつくった木のピクトサイン、季節ごとの旧校舎の思い出をちぎり絵で表現し、子どもたちが協働でつくった防火扉の校内案内サイン、地域と協働でつくったりサイクル陶器による黄柳川の水生生物をモチーフにした陶器壁画は校舎を鮮やかに彩ります。

[出典]

東畑建築事務所 <https://www.tohata.co.jp/works/index.php?mode=show&seq=493>